

グローバル競争力強化のための国際標準化マネジメント シラバス

1. 講師

上條由紀子（金沢工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科 准教授）

2. 研修テーマの狙い

近年、技術革新のスピードが速まり、研究開発におけるオープン・イノベーションの要請が高まる中、市場のグローバル化、デジタル化による産業構造の変化等を背景として、企業の研究開発による成果たる技術等を保護・活用するために「知的財産マネジメント」を行うだけでなく、「国際標準化マネジメント」を連動させることにより、日本企業がグローバルな市場を創出・拡大してシェアを獲得し、持続的な収益を確保するために事業戦略を策定・実行することが求められています。

また、昨今は、企業により権利化された知的財産権が、同時に国際標準化の対象になる場合も多く、企業において、標準化と知的財産との関係性を理解した上で研究開発を推進し、知財マネジメントと国際標準化マネジメントを組み合わせるビジネスモデルを構築し、グローバル競争力を強化することが求められています。

そこで、本研修では、主に事業部門の管理職の方々を対象として、国際標準化マネジメントを実践するために必要な基礎知識（標準化の概念、役割、種類、メリット及びデメリット、策定プロセス）を習得し、知的財産と国際標準化との関係性を理解して頂くとともに、具体的事例（ケーススタディ）の学習を通じて、市場拡大、シェア獲得、収益確保を実現し、グローバル競争力の強化に資する「国際標準化マネジメント」の実践及び事業戦略への活用について学びます。

3. 到達目標

本研修を受講することにより、主として企業の事業部門の管理職の方が、国際標準化マネジメントを実践するために必要な基礎知識（標準化の概念、役割、種類、メリット及びデメリット、策定プロセス）を習得し、知的財産と国際標準化との関係性を理解することができるようになります。また、具体的事例（ケーススタディ）を学習することにより、グローバル競争力強化のための「国際標準化マネジメント」の実践及び事業戦略への活用について理解できるようになります。

4. 受講対象者

主として、企業の事業部門の管理職の方々、企業における知財マネジメント及び国際標準化マネジメント策定・実行に関わる弁護士、弁理士等の専門職の方々を対象とします。

5. 教材一覧

No.	類型	狙い・ポイント	企業名	教材の概要・特徴
3-1	長編教材	CYBERDYNE 株式会社が人間装着型ロボットの研究開発を進めつつ、NEDO プロジェクトにて安全性に関する標準化・認証体制を構築、安全性についての国際標準 ISO13482 の策定及び認証取得を迅速に行うことで、いかに国内外へ事業を展開したかを知り、国際標準策定及び認証取得を活用した市場開拓・発展戦略について学ぶ。	CYBERDYNE /NEDO：(独) 新エネルギー・産業技術総合開発機構	事例：CYBERDYNE 株式会社～生活支援ロボットの国際標準化・認証を活用した市場開拓・発展戦略～ 生活支援ロボット分野における研究開発と事業化に伴った、国際標準化（ISO13482）と認証（CE マーク）取得に関する一体的な取り組みの事例
3-2	長編教材	ボッシュが行う標準化活動に着目し、ボッシュがなぜ「標準化」を仲間作りに使うのか、ドイツのBMW 社が行う「標準化」と比較しつつ、ボッシュのビジネスにおける標準化戦略について学ぶ。	ボッシュ/BMW	事例：ボッシュ～仲間作りのための標準化戦略～ ボッシュのビジネスモデル（車載用 LAN：CAN，ECU 制御ソフトウェア、AUTOSAR）における、仲間作りの標準化戦略に関する事例
3-3	短編教材	（掲載許諾が確認でき次第、随時公表してまいります。）		
3-4	短編教材	米国アップルと韓国サムスン電子の知的財産訴訟を通じて、標準必須特許に対する FRAND 宣言が後日の権利行使に際して、どのような影響を及ぼすか検討し、知的財産と標準化の交錯について学ぶ。	アップル／サムスン電子	事例：アップル対サムソン訴訟～知的財産と標準化の交錯～ スマートフォンをめぐる米国アップルと韓国サムスン電子の知的財産訴訟の事例標準必須特許に対する FRAND 宣言が後日の権利行使に際して、どのような影響を及ぼすかについて検討し、知的財産と標準化の交錯について学習する。
3-5	短編教材	抗菌製品技術協議会（SIAA）が中心となって抗菌加工製品ガイドラインの策定、抗菌効果評価試験方法の標準化（JIS 化）、自己認証マーク（SIAA）の運用、JNLA（試験所認定）制度の活用、評価試験方法の国際標準化（ISO）等を推進したことを知り、抗菌加工製品の安全性・信頼性を示して広く普及させる戦略について学ぶ。	抗菌製品技術協議会（SIAA）	事例：抗菌製品技術協議会～抗菌加工製品の評価試験方法の標準化～ 抗菌製品技術協議会が中心となり抗菌製品の性能、持続性、安全性等に関する評価試験方法を標準化し、SIAA マークを作って、認証スキームを構築した事例

No.	類型	狙い・ポイント	企業名	教材の概要・特徴
3-6	短編教材	大成プラス株式会社が開発した独自技術「ナノモールディング技術（金属と樹脂とを射出成形により接合する技術）」について、迅速な市場投入を実現するために「標準化」をいかに活用したか知り、「試験方法標準」の本質について学ぶ。	大成プラス	事例：大成プラス株式会社～ユーザーの信頼を勝ち取るための標準化戦略～ ナノモールディング技術（金属-樹脂の射出接合技術）の迅速な市場投入を実現するために標準化というツールを活用した事例
3-7	短編教材	ソニー株式会社が開発した非接触 IC カード技術「FeliCa」が、他の方式の非接触 IC カードとの競争の中で、どのように ISO/IEC 国際標準規格として認められたか、その経緯を知り、不利な状況でも「負けない」ための国際標準化戦略について学ぶ。	ソニー	事例：ソニー株式会社～非接触 IC カード技術 FeliCa の国際標準化戦略～ ソニーが開発した非接触 IC カード技術「FeliCa」の国際標準化を巡る攻防及び WTO 政府調達協定（GPA）との関係についての事例
3-8	短編教材	日本水晶デバイス工業会（QIAJ）が中心となり、水晶デバイスの品質評価基準の国際標準化を推進し、日本の水晶デバイスの技術優位性を世界に示すことによって市場の拡大をもたらす一方、水晶デバイスメーカー各社は、水晶デバイスに関する製造ノウハウについては公開せず、利益を確保する戦略について学ぶ。	日本水晶デバイス工業会（QIAJ）／水晶デバイスメーカー	事例：日本水晶デバイス工業会～水晶デバイスの品質評価基準の国際標準化～ IEC において水晶デバイスの品質評価基準の国際標準化を業界として推進しながら、水晶デバイスメーカー各社は水晶デバイスの製造ノウハウを公開せず、各社が独占して利益を確保する知財・標準化戦略の事例。
3-9	短編教材	「テレビ用音声合成 一般要求事項」に関する国際標準化プロセスの全体の流れ、国際標準化プロセスに携わる担当者の各段階における具体的な業務内容を把握し、国際標準化プロセスへ参画することの意義や国際規格の貿易的側面からの意義及び役割について学ぶ。	一般社団法人電子情報産業協会（JEITA）	事例：テレビ用音声合成 一般要求事項に関する国際標準化プロセス～攻めと守りの標準化戦略～ IEC TC 100 における「テレビ用音声合成 - 一般要求事項」に関する国際標準化プロセス（国際規格開発）の事例
3-10	短編教材	世界で初めて胃カメラを実用化し内視鏡分野の世界市場シェア約 70%を	オリンパス	事例：オリンパス株式会社～オリンパスの医療機器分野における標準化～ 内視鏡分野において大きなシェアを占めるオリ

No.	類型	狙い・ポイント	企業名	教材の概要・特徴
		占めるオリンパス株式会社の医療機器分野における国際標準化について学ぶ。		ンパス株式会社の医療機器分野における国際標準化についての事例
3-11	短編教材	(掲載許諾が確認でき次第、随時公表してまいります。)		
	自己学習 用教材 (電子コンテンツ)	国際標準化に関する基礎知識の習得		1. 標準・標準化とは何か ー標準・標準化の概念／定義 2. なぜ標準・標準化が重要か ー標準化の性質・役割・意義 3. 標準にはどのような種類があるか ー標準の分類 4. 国際標準・国際標準化とは何か 5. 標準と知的財産(権)との関係性とは

※参考（講義キーワード／ポイント事項）

1. 標準・標準化の定義 (自己学習)	①標準・標準化の概念 ②標準・標準化の定義 ③身近にある標準・標準化の具体例
2. 標準化の目的及び性質・役割・意義(自己学習)	① 標準化の目的とその重要性 ② 標準化の性質・役割・意義
3. 標準の分類(自己学習)	①標準の分類 ー基本標準、方法標準、製品標準 ー国際標準・地域標準・国家標準・企業標準 ーデジュール標準、デファクト標準、コンソシアム標準、フォーラム標準
4. 標準化の方法ー日本における標準化・国際標準化の策定プロセス (事例教材及び講義)	① 標準化の方法ー標準化の基本プロセス ② 日本における標準化 (JIS 規格) ③ 国際標準化・国際標準化とは何か ④ 国際標準化の策定プロセス (デジュール標準)
5. 標準化と知的財産 (事例教材及び講義)	① 標準化と知的財産との関係性 ② 標準化と知的財産の使い分け (オープン&クローズ戦略)
6. パテントプール (事例教材及び講義)	① パテントプールの仕組み ② パテントプールの課題及び解決策
7. 国際標準化マネジメント (事例教材及び講義)	事例および講義を通じて、様々な企業の知財・国際標準化マネジメントの実践を学ぶ。

6. 参考文献

- ・ 「オープン&クローズ戦略～日本企業再興の条件～」小川紘一著
- ・ 「コンセンサス標準戦略～事業活用のすべて～」新宅純二郎・江藤学著
- ・ 「国際標準化と事業戦略」小川紘一著
- ・ 「世界市場を制覇する国際標準化戦略～21世紀のビジネススタンダード～」原田節雄著
- ・ 「標準化戦争への理論武装」山田肇著
- ・ 「技術力で勝る日本が、なぜ事業で負けるのか」妹尾堅一郎著
- ・ 「国際競争とグローバル・スタンダード」経済産業省 標準化経済性研究会 編

- ・ 「標準化ビジネス」 藤野仁三・江藤学著
- ・ 「ビジネスモデルイノベーション」 渡部俊也編、新宅純二郎、妹尾堅一郎、小川紘一、立本博文、高梨千賀子著